FAXニュース
ŌMIYA
JR東労組大宮地本
2020年3月10日
No. 139

大地申第14号 「派出検査体制の見直し」に関する申し入れ団体交渉開催！ その１

大宮地本は、２０２０年３月９日に「派出検査体制の見直し」に関する申し入れの団体交渉を行いました。「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」施策において、安全を大前提としエルダー社員の技術力・ノウハウを活かせる仕事の場(出向先)を拡大し、今日まで安全・安定輸送の確保や車両品質の維持向上をつくりだしてきました。現場から、「委託で直接指示が出来ず、初動が遅れる」「技術を継承するプロパーが来ない」「要員を削って、業務だけ戻すのは負担が増えるだけ」といった声があがっています。職場の不安解消と安全・安定輸送の確保に向けて職場の声を基に、団体交渉を開催してきました。

１．小山派出を急遽廃止する根拠を明らかにすること。

◆会社回答：環境の変化に対応し、安全・安定輸送の確保を前提として、より効率的な派出検査体制の見直しを行うものである。

組合：廃止日の１か月前に知らされた。急遽となった根拠はなにか。

会社：新前橋・高崎運輸区の訓練が年末年始にかけて行われ、ギリギリになった。訓練を終えないと進められないこともあり、支社間の調整に時間を要してしまった。タイトなスケジュールになった認識はある。

組合：今回廃止となり定例業務がなくなるのはダイヤ改正日である。ダイヤ改正提案と同時に提案し、労使で十分な議論と職場の意見集約を積み上げるべき内容である。定例作業は高崎支社内で乗務訓練を実施していたのなら分かっていたことである。間に合わないのであれば大宮支社が高崎支社に突きつけるべきではないか。

会社：なるべく早い方がよいと思っている。一方で調整があるのでスケジュールを繰り上げるなど振り返って次につなげていきたい。組合の指摘については受け止めたい。

1ヶ月前になってしまったことについての問題意識を一致させてきました!
今後同じことを繰り返さないように調整していくことを確認しました!

２．委託以降、小山派出が担ってきた役割について、大宮支社の考え方を明らかにすること。

◆会社回答： 定例的な入換業務や車両故障対応等を行ってきたところである。

組合：小山派出のこれまでの役割をどのように考えているか？

会社：車両の入換えなどの定例業務の他に派出対応、異常時の初動体制を担ってきたと考えている。

組合：初動体制について、指令から発注を受けてから業務委託したが故の時間のロスがあるため、他に回したこともある。受けたくても受けられない現実がある。件数だけ見るというのはどうか。

会社：発注と実際の件数に乖離があるのは認識している。逆に他で対応可能であったとも言える。件数だけで議論してきたわけではない。内容についても確認してきている。様々な事情があったと認識している。

組合：同じ派出でも役割がそれぞれある。実態を知らずに「受けてもらえなかった」と軋轢なってはいけない。「やる」「やらない」が壁になると逆に非効率である。意見交換等を浸透していくのが必要と考える。

会社：意見交換は上期と下期に行っている。ＪＥＴＳとも目指す方向性をすり合わせていかない。意見交換は継続してやっていきたいと考えている。

異常時の初動体制という重要な役割を担ってきたことを確認!
意見交換を今後も開催し全体化していくことを訴えました!

その2へつづく